

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000660		
法人名	NPO法人すばる		
事業所名	グループホーム夢		
所在地	北見市留辺薬町旭中央29番地108		
自己評価作成日	平成24年7月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175000660&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道39号線より60mほど北に位置し畑に囲まれた広い空間のなかにあります。利用者が自由に花をつくり、作物を栽培できる場所を提供しています。毎年南瓜を収穫し利用者の食卓に用意されます。年間行事の中に春は近くの桜を遠くはチュウリップ公園を觀に出掛け、夏は道の駅見学、ホーム前で焼肉を行ない。秋は大正琴サークルの皆さんに来て頂き、懐かしい曲を演奏後、地域住民と共に収穫祭を楽しんでいます、日常生活は利用者の希望や要望を聞き、買い物、散歩、カラオケ、温泉に職員と一緒に出掛けています、又以前から通われていた店、理容美容医院、につながりをもち地域のイベントに積極的に参加しています。私たちは利用者の残された力を活かし、毎日楽しく明るく、お互い支えながら穏やかな生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム夢は、北見市留辺薬町東部に位置した平屋造りの1ユニットとなっています。周りは静かな住宅街で自然環境にも恵まれ敷地内には野菜畑や花壇があり、気候の良い時期には利用者が外気浴を楽しみながら家庭菜園づくりなどに取り組んでいます。毎年、味覚祭を開催し家族や地域住民も参加しての取り組みはホームを知っていただける機会とし会食、余興、ホームの様子のビデオを上映しています。利用者の様子を写真入で作った夢だよりと利用者の様子のDVDを作成し家族に配布し遠方の家族に喜ばれています。家族の方の要望を受け、8月のホームページ開設に向け取り組んでいます。ホームページを活かし家族・地域住民にホームを更に理解していただき交流を深めていけるよう努めています。「長い人生の主役です。自分らしくゆっくりとのんびりと」の理念の基、少しでも体を動かせるよう「夢体操」を考案し運動機能向上に配慮し、食事にも気を配り品数もボリュームもあり、利用者の健康管理に配慮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
					56
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、管理者と職員は共に共有しながら実践に勤めている。	理念は住み慣れた地域や環境の中で、利用者一人ひとりがゆっくりのんびりと自分らしく暮らしていけるようにとの思いから開設当初に作り上げ、職員は理念の実践に向け日々のケアサービスに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が、地域とつながりながら暮らして行けるよう地域のイベント等の参加、なじみの理容室に通うなど、地域の交流をしている。	地域の一員として町内会の行事に参加し、町内の葬儀の手伝い等にも管理者が代表で行ってまます。散歩時には挨拶や世間話を交わし地域とのつながりを感じて暮らせるように支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談には、認知症の理解や支援の方法等を説明しているが、地域の為の講習会等は行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っていないが、職員紹介や、地域のアドバイス等を受け、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は年6回開催され、行事予定と報告・地域との交流・ヒヤリハット報告・避難訓練についての反省点等話し合わせ事業所の運営に活かしています。議事録は家族に配布されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政の担当者とは常に連絡を取り、情報交換しています。運営推進会議にも包括支援センターの職員が参加しており利用者本位のケアサービスに役立っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を良く話し合い、管理者、職員が利用者一人ひとりの状況を把握し、その人に合った介助を行い身体拘束をしない様に取り組んでいる。	身体的・精神的苦痛を認識し身体拘束をしないケアの実践に努めています。家族の了承のもと緊急やむを得ず3柵を使用した利用者も、経過観察会議で話し合い改善に向け取り組み成果を上げ身体拘束解除にたどり着いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の状態を把握して虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に必要な人がいるのか話しあうが、活用支援までは行かない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並に機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の訪問時やケアプラン作成時に利用者家族との会話を大切に、意見要望を聞き取るよう努めています。玄関にも意見要望箱を設置し運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月開いている全体会議で職員の意見や、提案を聞き運営に反映する様に努めている。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見を聞き運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり相互訪問等の活動を通じて、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。ケアプラン等に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等がその時必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族支援される一方の立場に置かず、暮らしを出来る限り共にする者同士の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣近所へ気軽に遊び出掛けられる環境までは整っていないが、昔馴染みのお店や、美容院等へ出掛けられるよう配慮している。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できるよう支援しており、利用者が昔住んでいた地域にドライブに行き昔の知り合いに会うなど配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに職員が間に入り、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の言動や家族の意見や要望等の情報を得て、職員は利用者との日々の関わりを通して、その人らしい暮らしになるよう心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人記録があり、現状を把握し、毎日申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を開き、モニタリングする事で、現状に即した介護計画を作成している。	定期的な見直しは3ヶ月毎に行い、身体の変化や利用者・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記載し、毎日の介護実践の見直しは出来るよう朝のミーティングで話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて其の時々に応じて、柔軟な対応が出来るよう常にニーズは共有しており、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全で、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に馴染みの病院に受診、また往診に来ており、適切な医療を受けられるよう支援している。	週に2度の訪問看護師による健康管理、月に1度の協力医療機関による往診が行われています。家族の希望する医療機関に通院する利用者もおり情報を共有し適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員や月2回訪問看護を受けており、柔軟に相談し適切な介護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間対応できる医療機関とつながっており、常に情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族、関係者と話し合い、事業所でできる事を十分に説明し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応に係わる指針を基に、入居時に利用者・家族に説明し同意書を交わしています。随時、家族の意向を確認しながら医師・職員と連携を図り、思いに添った支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は応急手当や初期対応の訓練を受けているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されているが、訓練は安心できるほど充分ではない。	年2回消防署の立ち会いの基、地域住民も参加し夜間想定避難訓練を実施しています。	いつ起こるか分からない災害については、火災だけではなく地震やライフラインが止まったときに対応できる訓練や書類の整備に取り組むことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、誇りを尊重し、その人へ会った言葉かけや対応をしている。	病名など人に知られたくない情報を周りに知られないよう配慮し、利用者のプライドや羞恥心を大切にされた対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、耳を傾け、表情などでも読み取るよう心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、以前の生活と大きな変化がないように、対応していくために、本人の意向を大切に支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人へあった季節感のある身だしなみの手助けや、助言、理容、美容室は本人の行きつけのお店に通っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に、食事の準備と後片付けをしている。	献立は2ヶ月ぐらい決まっていますが、その日の天気や利用者の希望により柔軟に対応しています。管理栄養士に献立を見てもらい栄養バランス等のアドバイスをもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や、水分量を把握し、記録に残しており、充分確保できるようその人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており、本人の力に応じた口腔ケア介助、支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為に、一人ひとりの排泄間隔にあわせたトイレ習慣の支援をこころがけている。(排泄パターンの把握)	出来るだけおむつやパッドを使わず布パンツで過ごせるよう一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向け取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を元に一人ひとりのパターンを良く知り、食事の工夫や、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴子エク表を元に、一人ひとりの体調、希望にあわせ入浴の支援をしている。	利用者のその日の体調や希望を確認し、週2回以上の支援を心掛けています。一番風呂が好きな利用者や同性介助を希望する利用者など、ゆっくり寛げるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の工夫した支援により、昼夜逆転しないよう、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がすぐ確認できる場所に保管しており、一人ひとりが用法や用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの、生活歴を元に本人の希望や意志を聞き、得意分野を表現し楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にあるいは、利用者の方と家族がともに出掛けられるように支援している。	日常的に散歩や買い物に出掛けています。畑の草むしりを日課にする利用者もいます。お弁当持参でチューリップ公園や水族館見学に出掛けたり、町内のお祭りにも参加しています。利用者の希望に応じ外出機会を設け楽しみに繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が穏やかに安心して生活できる様に、音楽をながしたり、思い出の写真を飾っている。	居間と食堂はワンフロアになっており、大きな窓からは畑や山などの風景が見渡せ、窓を開けると風通しが良く自然の風が心地よくゆったりと居心地のよい共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内は狭いので、外にベンチを置き気の合った者同士で思い思いに過ごせるような居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物を活かし、本院が心地よく過ごせる工夫をしている。	居室には使い慣れたベットや椅子、タンス等が置かれ、家族の写真や手紙などが飾られており安心して過ごせるよう考慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かして、混乱や失敗のないよう、自立して暮らせるように、部屋には表札を掛け、トイレなどすぐ分かる様に目印をつけている。		